玖波中だより No.12

大竹市立玖波中学校　令和５年１１月１５日

学校教育目標「自他を大切にし，主体的に考え行動できる生徒の育成」

発行責任者　小田　大介　　文責　藤川　健二

先日の学校朝会で「表・裏」と「準備」をキーワードに文化祭について校長から講話がありました。

感動させた裏には，黒子の姿あり　～裏方に徹する～

表舞台に立ちながら裏方の仕事をやっていた人もいました。その一方表舞台に立つことなく裏方に徹する人もいました。この人たちの姿に何人の人が気付いたでしょう。人生には表と裏があります。是非，裏側にも目を向けることができる人になってもらいたいと願っています。

社会に出ると，表舞台に立たない，立てない人の方が圧倒的に多いのです。なかなか，裏方にスポットライトが当たることはありません。それでも卑屈になることなく，ひたむきに仕事をこなし，表舞台に立つ人の喜びを自分の喜びとして感じることができる人が本当の裏方なのです。まだまだ修行が足らないと思う今日この頃です。

感動させた裏には，用意周到な準備あり　～段取り八分，仕事二分～

仕事を(劇)成功させる秘訣は段取り(準備)が大切。段取りがうまくできれば仕事はうまくいくという意味です。

更なる感動をよぶ裏には，振り返りあり

段取り八分，仕事二分と書きましたが，それだけで終われば次に続きません。最も大切なのは仕事の後，そのプロセスを振り返ること，その仕事で得た経験・出来映え・プロセスを次に活かすことなのです。先日の朝会で，岩塚実行委員長が素晴らしい振り返りをしてくれましたので紹介します。

まずは仲間の力のありがたさを感じました。自分や他の人ができないことをカバーし合う。僕はその行動に何度も助けられました。一人の力より仲間との力の方が大きい。当たり前のようなことだけど僕は今日の文化祭でその意味を強く感じました。そして，裏方の人の力があってこそ行事が成り立つんだと実感しました。今回初めて文化祭実行委員を務めさせてもらい，色々な人が見えないところで動いてくれていました。行事を創っていくうえでは，目立たないところでも動いていくことが大切だと実感できました。今回培った経験をこれからの自分たちの生活に活かしていきたいと思います。

最後に皆さんに伝えたいことがあります。『今回の文化祭の成功は，みんなの協力と努力のたまものだ』ということを忘れないでください。そして，僕たちは「頑張った」「やりきった」という自信をもってほしいです。今回の経験をこれからの行事づくりや部活動，勉強など様々なところに活かせると思います。是非，自分たちの人生の糧としていきましょう。

岩塚実行委員長の話のキーワードは「感謝」と「仲間」でした。このような話を聞く度に，以前にも紹介したことがありますが，ある高校の剣道場に，下のような書が掲げられていたことを思い出します。

チームのために
何ができるのか
『ありがとう』
と言ってもらえ
『ありがとう』
と言える
人になれ
強さとは
優しさだ

文化祭後はもちろん，これからの生活の中で『ありがとう』の言葉が飛び交えばいいですね。そのことが，友だちが「自分にはよいところがあると思える」「自分にはよいところがあると思ってもらえている」と感じることができる第一歩ではないかと思います。友だちの良いところ，自分の良いところを見つけることも学校生活を送る目的の一つなのです。そのためには、『ありがとう』の目と心を養うことも大切ですね。

また，校内には，生徒一人一人，ありがとうのメッセージを書いて「ありがとうの木」を掲示しました。みんなの「ありがとう」が溢れる「ありがとうの木」が完成しました。この木が更に成長し「ありがとうの樹」になることを願っています。